

原書第3版の序文

国際頭痛学会の分類委員会を代表して、ここに国際頭痛分類第3版(ICHD-3)を発表することを誇りに思う。

これは2013年のICHD-3 beta版の後を継ぐものである。beta版の狙いは、ICHD-3の最終版を公表する前にさらなる実地試験を推進することであり、そして、それは上手く行った。とりわけ、前兆のある片頭痛、群発頭痛、特発性頭蓋内圧亢進症、三叉神経痛などについて、優れた実地試験研究が発表された。例えば、A1.2「前兆のある片頭痛」の付録基準は、この疾患を一過性脳虚血発作と区別するうえで、ICHD-3 beta版本文の1.2「前兆のある片頭痛」の基準より優れていることが立証されている。3.1「群発頭痛」の診断基準C1の新規関連症状であった顔面の紅潮と耳閉感は、実地試験により鑑別点ではないことが明らかとなった。したがって、これらの症状はICHD-3の付録のみに収録されており、さらなる研究が求められる。これらが疾患分類の根拠に基づくプロセスの好例である。今やこのプロセスは、将来的に国際頭痛分類に加えられるあらゆる変更を下から支えているものである。

beta版が有用である理由は、世界保健機関(WHO)からの国際疾病分類改訂第11版(ICD-11)の出版に合わせ、そのコードを含んでICHD-3に収録できると考えられていた。2016年にはICD-11が完成すると見込んでいたが、残念ながら予期しない長期の遅延があり、最終コードは依然として利用不可能である。そのため、最終コード抜きでICHD-3を公表しなければならない。

現在ICHD-Iと呼ばれる国際頭痛分類初版の発表から、ちょうど30年後に『Cephalalgia』誌2018年第1号でICHD-3が出版された。初版は主に専門家の見解に基づくものであったが、それでも大部分が有効であることが証明された。2004年に発表されたICHD-2には、新たな根拠と専門家による見解の見直しに基づく多数の変更が盛り込まれた。新たな科学的根拠が、ICHD-3 beta版に加えられた変更では比較的大きな役割を果たしたが、ICHD-3におけるさらなる変更もすべてこういった根拠に基づいている。このように、現在および今後の頭痛分類は、完全に研究に基づいている。

2010年に始まった長い道のりはICHD-3の発表によって終了したが、現行の委員会にはまだこれからの数年間になすべきことが多くある。ICHD-3 beta版は多くの言語に翻訳されたが、各言語でICHD-3を公表する前に、これら翻訳を更新する必要がある。ICHD-3がすべての主要言語と多くの少数言語でも利用可能となるよう、多くの追加翻訳が発表されることを期待したい。Hartmut Göbel教授主導のもと作成されていたICHD-3 beta版の電子版も、ICHD-3に更新される予定である。Morris Levin教授とJes Olesen教授が共同で症例集の作成を計画している。最終的に、ICD-11のコードが利用可能となり次第、Timothy Steiner教授とJes Olesen教授がICHD-3とWHOのICD-11の橋渡しを行う予定である。

それでは、頭痛分類の将来はどのようなになるのだろうか。分類は原則として保守的でなければならない。分類に大幅な変更を加えた場合、その分類の変更された部分で引用していたすべての

先行研究を見直さなければならない。例えば、診断基準に大幅な変更が加えられた場合、新規の診断で分類される患者と以前の診断で分類される患者が異なってくるため、以前の診断基準に基づいて実施された薬物試験は再度実施し直さなければならない。将来的な変更が完全に根拠に基づいたものとなるよう、ICHD-3で行われた活発な実地試験と科学的分析が今後も継続することが期待される。慣例に従えば、ICHD-4の発表は10～15年後となるが、その間には多くの実地試験研究が行われるだろう。ICHD-2の変更された診断基準として1.3「慢性片頭痛」が『Cephalalgia』誌に発表されたが、これらの変更は分類委員会によって承認され、数年後にICHD-3 beta版が登場するまで国際頭痛分類には統合されなかったものの、直ちに使用を開始するように求められた。将来の頭痛分類委員会も同様に、『Cephalalgia』誌で発表された優れた実地試験研究によって新規または改訂診断基準が立証された場合には、それらの採択をICHD-4の発表前に承認および支持できるようにすべきである。

ICHD-1は、頭痛分類を神経疾患のなかで最悪の分類から最良の分類へと導いた。この勢いは30年間維持され、そして最近、ジュネーブにおけるICD-11神経部門の委員会作業のなかで頭痛分類の優位性が明らかとなった。神経分野において、すべての疾患を明白な診断基準でこのように体系的に分類したものはほかにない。この慣例が今後も維持され、頭痛が神経疾患の分類において引き続き先導し続けることを切に願っている。

Jes Olesen
国際頭痛学会
頭痛分類委員会
委員長

謝辞

国際頭痛学会の頭痛分類委員会の作業は、国際頭痛学会のみによる経済的な援助を受けて行われている。『国際頭痛分類第3版』には商業的スポンサーは存在しない。Timothy Steinerの協力に感謝する。第一に分類委員会の名誉幹事としての尽力に対して、次いで本稿の原稿整理および準備における彼の仕事に対して。